

情報共有に関するニーズについて

【本資料の位置づけ】

全体会議や地域メディア連携協議会参加者からのご意見や、関連取組などから得た災害時の情報共有・発信に関連するニーズを整理。

情報共有・情報発信のニーズ

分類	ニーズ
用語の統一・解説	難解な防災用語の見直しや解説の充実、勉強会の開催への要望。
勉強会・解説資料の充実	「川の防災情報」ウェブサイト等への利用方法、解説資料が必要。
メディアと行政の連携強化	- 災害発生後時間を置かずに行政とメディアで課題を議論する場が必要 - 専門家(国土交通省職員)からの解説の拡充。
提供情報のニーズ (リアルタイム・予測情報)	- リアルタイム・予測情報の提供ニーズ - カメラ情報提供へのニーズ(画質や夜間利用、水位上昇箇所との対応)
情報提供方法へのニーズ (網羅性、統一性、一元化、機械可読化)	- ハザードマップの仕様統一やデジタルデータの一元化が必要。 - 浸水想定区域や想定浸水深などの情報の網羅性が必要(未設定箇所情報提供へのニーズ) - メンテナンス情報などの機械可読形式や視聴者が状況を把握できる形式での情報提供が必要。
情報提供方法へのニーズ (パーソナライズ化)	- 個人の現在位置や登録情報に基づく情報発信アプリの利活用推進 (マイ・タイムライン関連アプリ、逃げなきやコール関連アプリ) - パーソナライズされた情報発信へのニーズ
提供手段・対象の多様化	X以外のSNSも含めた情報発信手段の多様化が必要。 (高齢者、外国人等 多様な方への情報提供)

ニーズと関連取組

防災用語の統一・解説のニーズ

- ・ 難解な防災用語の見直しや解説の充実、勉強会開催への要望
 - ✓ 気象用語・表現に関する勉強会があるとありがたい
 - ✓ 報道で正確に伝える必要があるため、河川名・地名にフリガナを付してほしい 等

【参考】

R5年度に全体会議メンバ、地域メディア連携協議会メンバ向けに防災用語で解説ニーズのある用語を調査を実施
回答者: 158(メディア回答者: 104、公的機関回答者: 54)

防災用語ウェブサイト登録用語、登録候補用語を対象とした選択式

メディア関係回答者が解説ニーズの高い用語としての選択割合が5割を超えたもの

XRAIN、DiMAPS、川表、川裏、捷水路、バックウォーター(背水)、パイピング、1/N洪水、確率年、浚渫、霞堤、感潮河川、特別防災操作、死水容量

自由回答等

赤字: 防災用語ウェブサイト既登録用語(調査時点)
青字: 追加登録用語

メディア関係回答者による自由回答での解説要望用語

ダム操作、治水安全度、大雨警報(浸水害)、リードタイム、L1・L2、基本高水、顕著な大雨に関する情報 等

メディア関係者から地整担当者が質問を受けた用語として挙げられた用語*

流下能力、流域治水、治水協定、氾濫の可能性のある水位、緊急放流、想定最大規模降雨 (*R5年度: 別調査)

その他意見

- ・対応・運用に使う「専門的な言葉」と外に向けて発信する「伝わる」言葉とを使い分けてほしい
- ・単に用語の意味だけに留まらず、使用するシチュエーションや、注意して欲しいことまで記載すると、より役立つサイトになると感じる
- ・溢水、越水などの類似用語の違いが分かるようにするとともに、管理側から見た用語の使い分けは一般住民にわかりにくいいため伝える用語として「氾濫」に統一するなど考えられる
- ・地域での河川の呼称と国や地方自治体等のシステムとの名称表記が異なる場合があるため呼び名を統一してほしい

防災用語の統一・解説に係る関連取組

防災気象情報の体系整理と最適な活用に向けて(「防災気象情報に関する検討会」取りまとめ)

- シンプルでわかりやすい防災気象情報の再構築に向け、防災気象情報全体の体系整理や個々の情報の見直し、受け手側の立場に立った情報への改善などを取りまとめ。

警戒レベル相当情報の体系整理

◎ シンプルでわかりやすい情報体系・名称に整理

【洪水】：氾濫による社会的な影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫を対象とし、河川ごとの情報とする。これ以外の河川の外水氾濫については、内水氾濫と併せて市町村ごとに発表する【大雨浸水】に関する情報とする※¹。

【土砂災害】：発表基準の考え方を統一し、災害発生の確度に応じて段階的に発表する情報とする。

【高潮】：潮位に加えて沿岸に打ち寄せる波の影響を考慮し、災害発生又は切迫までの猶予時間に応じ段階的に発表する情報とする。

		洪水に関する情報 「洪水危険度」	大雨浸水に関する情報 「大雨危険度」※ ¹	土砂災害に関する情報 「土砂災害危険度」	高潮に関する情報 「高潮危険度」
		氾濫による社会的影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫		
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※ ²
警戒レベル相当情報※ ⁴	5相当	レベル5 氾濫特別警報※ ³	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報※ ³
	4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報

左記情報名称のポイントをシンプルに表現
→将来的に「警戒レベル」が社会に十分に浸透した際には、
以下のようなシンプルな形の名称を検討することも一案。

		洪水危険度	大雨危険度	土砂危険度	高潮危険度
警戒レベル相当情報	5相当	洪水レベル5	大雨レベル5	土砂レベル5	高潮レベル5
	4相当	洪水レベル4	大雨レベル4	土砂レベル4	高潮レベル4
	3相当	洪水レベル3	大雨レベル3	土砂レベル3	高潮レベル3
	2	洪水レベル2	大雨レベル2	土砂レベル2	高潮レベル2

・ 情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。

※¹ 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後の課題として検討。

※² 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

※³ 洪水予報河川または水位周知河川、高潮に関する情報の対象沿岸において氾濫の発生を確認した場合、その旨を氾濫特別警報または高潮特別警報の文章情報等に明記。

※⁴ 警戒レベル相当情報とは、国・都道府県が発表する防災気象情報のうち、居住者等が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報と5段階の警戒レベルとを関連付けるものである。警戒レベル相当情報が発表されたとしても必ずしも同時刻に同じレベルの避難情報が発令されるものでない。

防災用語の統一・解説に係る関連取組

防災用語ウェブサイト

- 国土交通省では、LINEやフー株式会社と連携し、同社が運営するインターネットニュース配信サービス「Yahoo!ニュース」等において、インフォグラフィックによる防災情報などの普及啓発の取組を開始

防災用語ウェブサイトの表記の改良事例：異常洪水時防災操作（緊急放流）

防災用語ウェブサイト（水害・土砂災害）

用語ウェブサイトTOP

■検索

検索ワードを入力 検索

トップページに戻る

■アイウエオ順

アイウエオ ☐

カキクケコ ☐

サシスセソ ☐

タチツテト ☐

ナニヌネノ ☐

ハヒフヘホ ☐

マミムメモ ☐

ヤユヨ ☐

ラリルレロ ☐

ワワン ☐

■アルファベット順

ABCDE ☐

FGHIJ ☐

KLMNO ☐

PQRST ☐

UVWXYZ ☐

数字 ☐

■解説

■更新情報

2024/11/13
「異常洪水時防災操作(緊急放流)」を更新しました
「緊急放流(異常洪水時防災操作)」を更新しました

異常洪水時防災操作(緊急放流)

いじょうこうずいじほうさいそうさ(きんきゅうほうりゅう)

ダム

○概要
ダムが満水に近づいたときに、ダムからの放流量をダムの流入量と同程度となるよう近づけていき、満水になったら放流量をそのまま下流側に通過させること。

○求められる行動
ダムが満水になるとそれ以上水を貯められなくなるため、ダムの下流の河川で水量が増えて²氾濫するおそれがあります。ダム下流の地域にいる人は、**緊急放流**が開始される前に、自治体からの避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。

○用語の説明
ダムの能力を超えるような大雨・増水によりダムが満水となると、ダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなる。そのため、ダムが満水になることが見込まれた場合、ダムからの放流量をダムへの流入量と同程度となるよう増加させ、満水に達したら流入量をそのまま下流に通過させる操作を行うことになる。これらを異常洪水時防災操作という。以前には「ただし書き操作」と表現していた時期もあった。一般には、**緊急放流**という。開閉ゲートを持たない越流式の非常用洪水吐から越流させてダムへの流入量をそのまま下流に通過させることは、操作はしていないので、異常洪水時防災操作ではないが、**緊急放流**としている。なお、大雨の際もダムは流入する水の全量を貯めこんでいる（放流量をゼロにしている）のではなく、異常洪水時防災操作によってはじめてゼロから放流を開始するわけではない。異常洪水時防災操作に移行する可能性があるときおよび実施するときは、ダム管理者から関係自治体等へ操作の実施を伝えるほか、報道発表等を通じて報道機関から一般に伝えることも行われる。

○情報を伝える際の留意点
・ダム操作としての正式名称は「異常洪水時防災操作」であるが、緊急時に呼びかける際には、ワンフレーズでその意味が受け手に理解されるよう、関係自治体等への通知等において「**緊急放流**」を使用する。ただし、ダム操作に対する正しい理解を促進するため、平常時から、ダムの役割や増水時の一連の操作などについて説明・意見交換などのリスクコミュニケーションを行う。
・異常洪水時防災操作の実施が予告されたのちも、その後の降雨の状況により開始時間が前後する可能性があるため、早めの避難を促す。

○同義語
緊急放流、ただし書き操作

○関連情報
[洪水調節（用語）](#)
[異常洪水時防災操作\(音声・動画解説\)](#)
(令和3年6月29日作成、令和6年11月13日一部更新)

(拡大)

緊急放流(異常洪水時防災操作)とは

通常の放流 緊急放流

通常の雨 異常な大雨

20 減らして放流 100 流入 80 貯める 100 そのまま放流 100 流入

大雨でダムが満水に近づいた時…
下流の河川の急激な水位上昇を防ぐため、放流量を徐々に増加させ、ダムに流入した水をそのまま下流に流す
「ダムに貯めこんだ水を一気に放流する」のではない

(拡大)

緊急放流(異常洪水時防災操作)が予告されたら

ダムが低く抑えていた下流河川の水位が上昇する恐れ
下流の地域にいる人がとるべき行動は？
⇒自治体からの避難情報を確認、早めの避難行動を

情報を入手する手段

自治体 メディア ダム管理者

防災行政無線 インターネット スマホアプリ テレビ・ラジオなど サイレン

メール・SNS など 警報車

Yahoo!ニュース
防災用語解説
編集 国土交通省

関連用語へのリンクを追加

イメージ図等の更新

勉強会・解説資料の充実へのニーズ

- ・ 「川の防災情報」ウェブサイト等への利用方法、解説資料が必要
 - ✓ アンケート結果(資料2参照)からも解説資料のニーズが高いことが確認
 - ✓ 記者等のトレーニングのため、使い方に関する勉強会を希望 等のニーズあり

【参考】



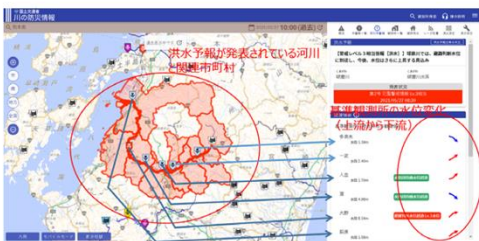
図 国交省担当者向けアンケートによる参加者からの要望についての調査
(地域メディア連携協議会)【再掲】

勉強会・解説資料の充実に係る関連取組

各地域メディア連携協議会などでの解説

○各地の地域メディア連携協議会にて解説資料等をそれぞれ提示

国土交通省「川の防災情報」:地図画面:●●川



16

国土交通省「川の防災情報」:地図画面:●●川:洪水予報



17

国土交通省「川の防災情報」:地図画面:●●川:洪水予報



予測水位の表示についての注意点



洪水に関する危険度情報の一体的発信

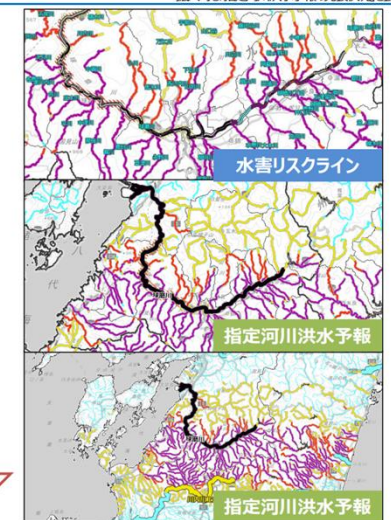
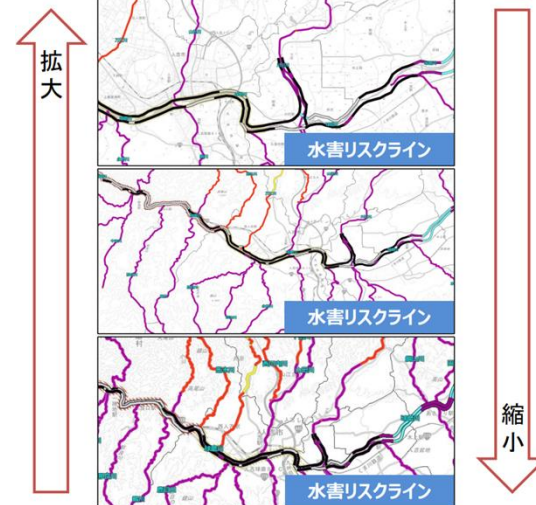
国土交通省

閲覧画面のイメージ

表示画面を拡大することにより、詳細な危険度の閲覧が可能。

- 拡大時: 「水害リスクライン」の詳細な危険度を表示
- 縮小時: これまで通り指定河川洪水予報の発表状況を表示

- ※ 県の指定河川洪水予報区域: 拡大時もこれまで通り指定河川洪水予報の発表状況を表示
- ※ 一定時間以上水害リスクラインが拡大した場合(障害等含む): 拡大時も指定河川洪水予報の発表状況を表示



6

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000807480.pdf
令和3年 第1回 関東地方整備局メディア連携協議会資料より

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000862840.pdf
令和5年 第1回 関東地方整備局メディア連携協議会資料より

メディアと行政の連携強化のニーズ

- ・ 災害発生後時間を置かずに行政とメディアで課題を議論する場が必要
- ・ 専門家(国土交通省職員)からの解説の拡充
 - ✓ 災害報道の伝え方について、災害後あまり時間をおかずに行政とメディアで課題を議論する場を設けた方がよい。
 - ✓ メディアが求める情報等の意見を伺う機会を設けてほしい。
 - ✓ 現場に記者が出払い、会見会場に派遣できないことも想定されるためWeb参加も検討いただきたい
 - ✓ 地方気象台との共同会見によってより地域にフォーカスした情報提供ができるため住民にとって参考になると考える
 - ✓ 地方では人員が少ないため専門の職員が解説してくれると非常にありがたい 等

(参考)R5年度 地方整備局担当者の解説経験にかかる調査

実績内容	回答数
メディアに専門家として河川情報の解説等を実施したことがある(映像)	1地整等
メディアに専門家として河川情報の解説等を実施したことがある(音声)	1地整等
気象庁との合同記者会見を実施したことがある	7地整等

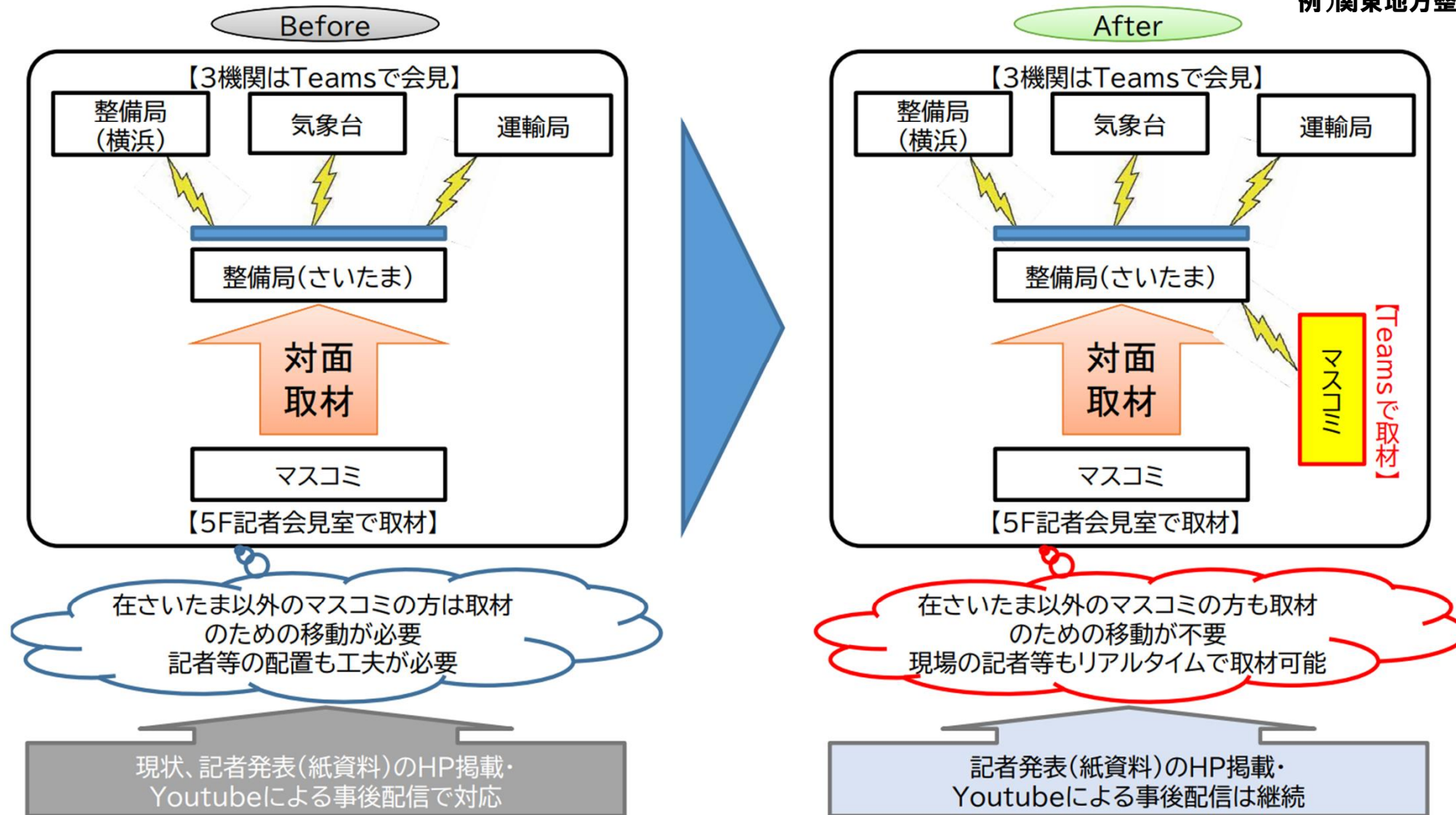
メディアと行政の連携強化に係る関連取組

合同記者会見のオンライン取材

- 対面取材以外のMicrosoft Teamsを用いた取材の仕組み

異常気象(台風・大雪等)時の気象台・運輸局・整備局の合同記者会見について、幅広くマスコミの参加を促すため、オンライン取材の仕組みを構築し、防災情報の周知を充実

例)関東地方整備局



提供情報(リアルタイム・予測情報)のニーズ

- リアルタイム・予測情報の提供ニーズ
- カメラ情報提供へのニーズ(画質や夜間利用、水位上昇箇所との対応)
 - ✓ 記者等の水害リスクラインのデータを提供してほしい
 - ✓ 静止画だけでなくリアルタイム動画映像もの提供や、夜間においても映像が出せるように工夫、河川監視カメラのHD画質化を希望(他方、通信量が膨大なものとなる)。
 - ✓ カメラの数が多いため、緊急時に適切な映像を選択できるようにしたい 等のニーズあり

(参考) 各地整の河川カメラの配信状況(R5年度調査をもとに一部更新)

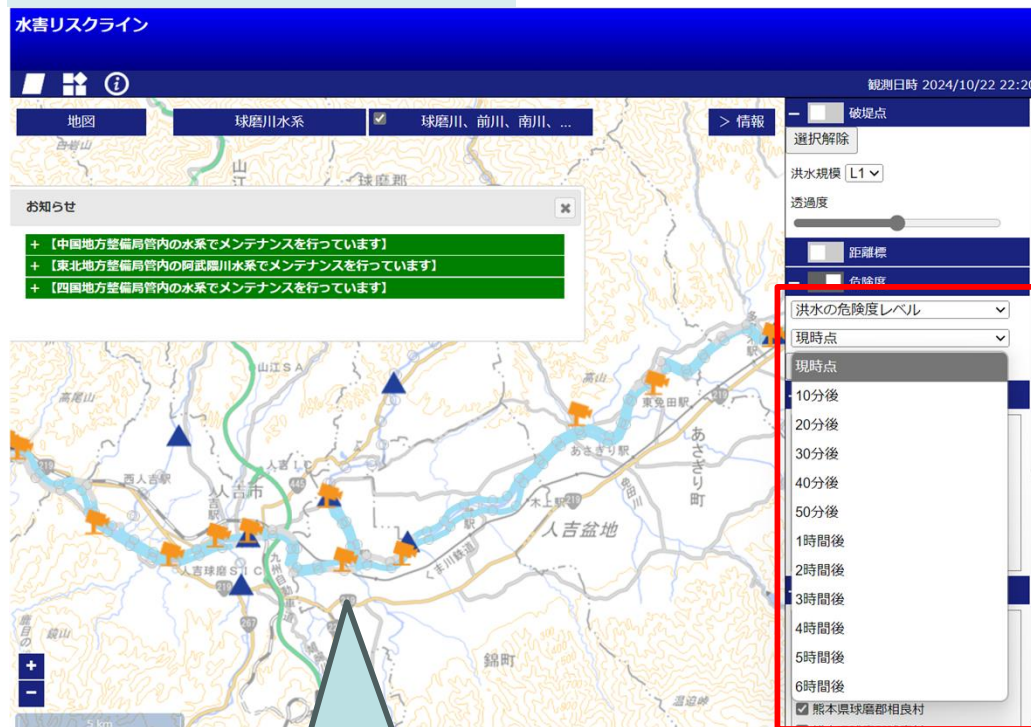
	YouTube配信	TVメディアでの配信
北海道開発局	13水系/13水系 32河川	—
東北地整	1水系/12水系	12水系/12水系
関東地整	8水系/8水系 19河川	8水系/8水系 60河川
北陸地整	12水系/12水系 23河川	12水系/12水系
中部地整	—	13水系/13水系 40河川
近畿地整	10水系/10水系	—
中国地整	13水系/13水系 26河川	13水系/13水系 43河川
四国地整	2水系/8水系 4河川	—
九州地整	20水系/20水系 74河川	20水系/20水系 74河川

提供情報(リアルタイム・予測情報)に係る関連取組

水害リスクライン・キキクルでの予測情報の提供

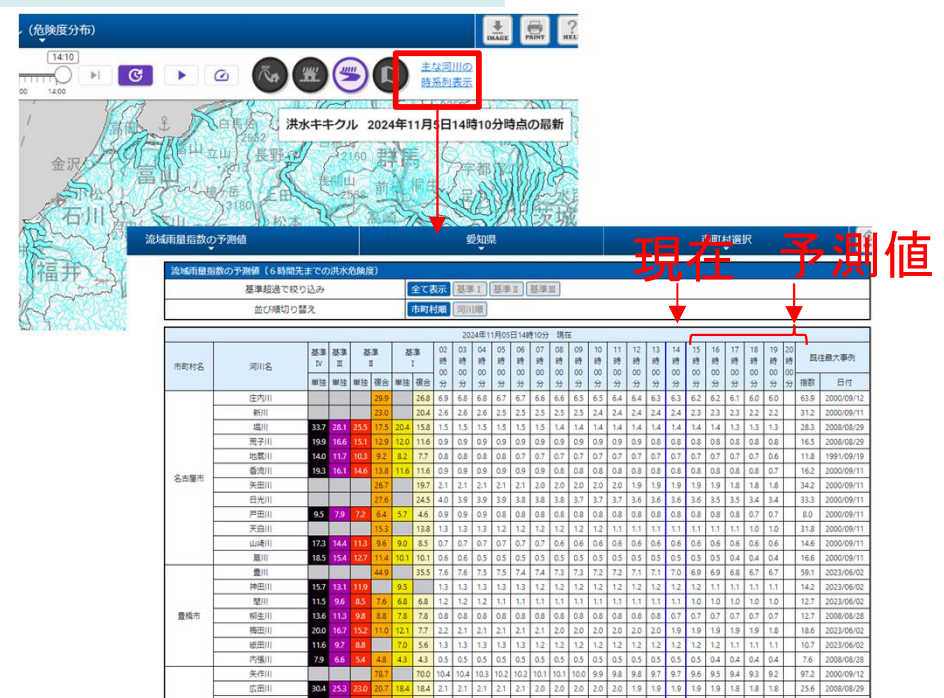
- 水害リスクライン、キキクルサイトにおいて6時間先までの予測情報を提供

水害リスクライン



対応するカメラ画像
も併せて確認可能

キキクル



提供情報(リアルタイム・予測情報)に係る関連取組

浸水センサ表示システムの試行公開

○ リアルタイムに浸水状況を把握する仕組み：令和6年11月14日より公開

ワンコイン浸水センサ実証実験の概要

ポンプ設置のタイミングや通行可否の判断に
浸水センサを活用



実証実験参加自治体：秋田県秋田市
(令和6年7月9日 浸水状況)



実証実験参加自治体：埼玉県戸田市
(令和6年7月31日豪雨 浸水状況)

浸水発生時の迅速な判断・情報発信に役立つ
ワンコイン浸水センサ実証実験

～ 官民連携による流域の浸水状況把握 ～

POINT! 国土交通省が 浸水情報をリアルタイムで収集・共有します

国土交通省HP ワンコイン浸水センサ実証実験

<https://www.mlit.go.jp/river/gijutsu/wankoinsensa/index.html>



官民連携で浸水状況をリアルタイムで把握する仕組みを作っています

国・自治体・企業・大学など、流域内のあらゆる関係者が参加して実証実験を実施中!



ワンコイン浸水センサ

小型、低コストかつ長寿命で、流域内に多数の設置が可能な浸水センサ



実証実験に用いている浸水センサ

リアルタイムの浸水状況表示システム

各センサの情報を一元的に収集し、浸水状況を共有するシステム



浸水センサ表示システムのイメージ (広域&拡大)

ワンコイン浸水センサ実証実験参加者の声



A自治体

浸水センサを活用することで、浸水範囲や浸水深を早期に把握することが可能となるため、避難情報発令及び通行規制の判断や面的な被害状況の把握に繋げたい。

急な浸水や内水氾濫をいち早く把握することで管理施設の被害防止・軽減、早期復旧に活用したい。



B企業

お問い合わせ先

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室
ワンコイン浸水センサ 担当
E-Mail : hqt-immersion-sensor@gxb.mlit.go.jp

提供情報(リアルタイム・予測情報)

水管理国土保全局の取り組み(川の防災のアップデートについて)

河川カメラの過去画像表示機能及び履歴動画表示機能の追加

旧「川の防災情報」

過去の日付(時刻)を設定しても、現在の時刻の画像が表示される仕様になっていた。



カメラ以外は過去の情報が表示されるが、カメラは現在の画像が表示されるため、利用者に誤解を与える可能性がある。

新「川の防災情報」

過去の日付(時刻)を設定すると、その日付の画像を表示することができる。

※ただし、遡ることができるのは3日前まで。

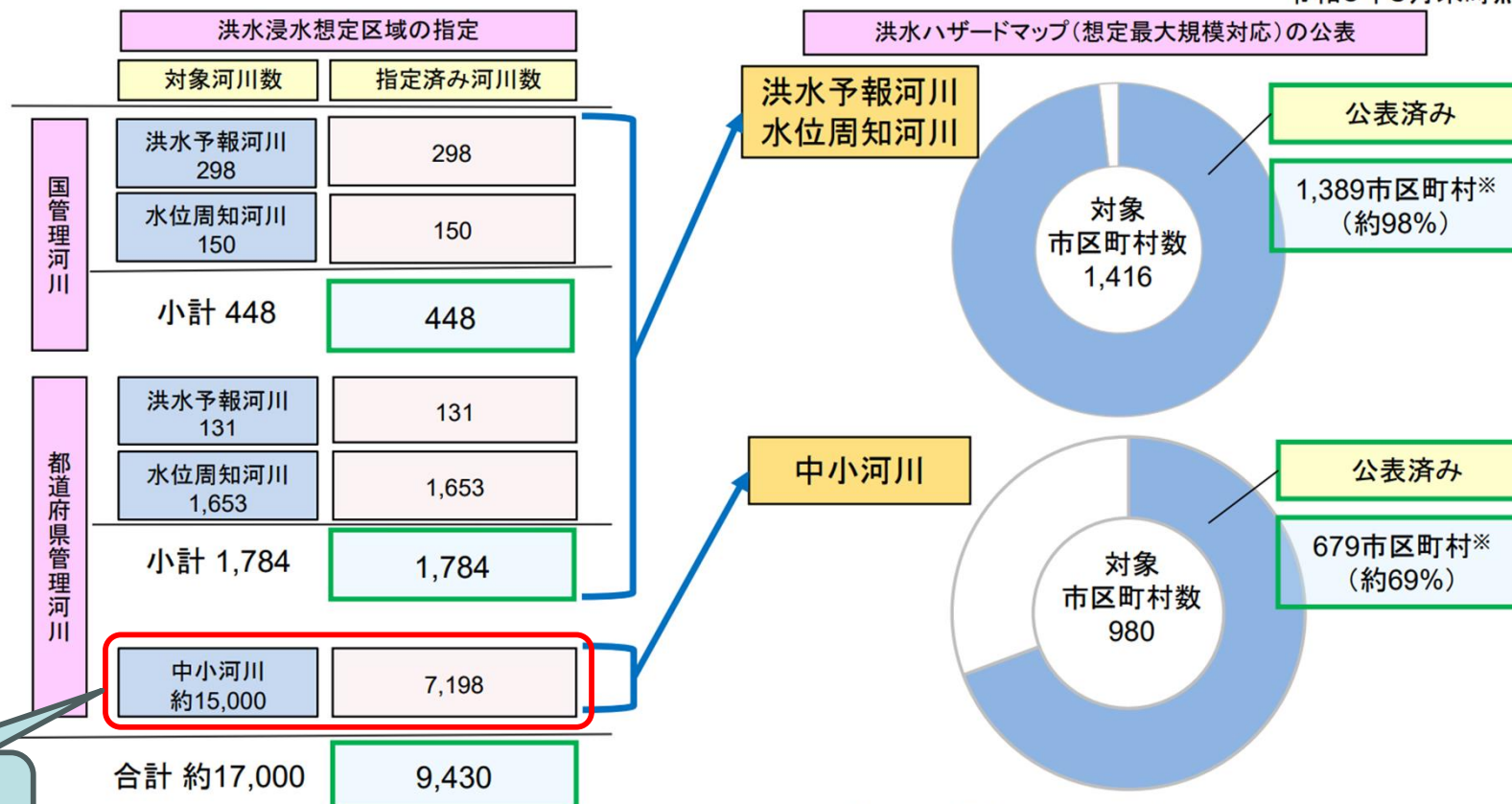


現在までの履歴動画を表示する機能を追加(1時間程度)

情報提供方法のニーズ(網羅性、統一性、一元化、機械可読化)(1/2)

- ハザードマップの仕様統一やデジタルデータの一元化が必要
- 浸水想定区域や想定浸水深などの情報の網羅性が必要(未設定箇所情報提供へのニーズ)
 - ✓ ハザードマップのデジタルデータが一元的にデータ管理されていないことが課題
 - ✓ 浸水想定区域などのデータは網羅的に公開されてないと浸水深0の範囲が、リスク無しなのかリスクを評価されていないのかの識別ができないため、未設定箇所情報を提供してほしい等のニーズあり

令和6年3月末時点



約半数が
未指定

※洪水浸水想定区域が指定されている河川が存在する市区町村において、
1河川以上の浸水想定区域図に対応したハザードマップを公表している市区町村数

浸水想定区域の指定・ハザードマップの公表状況

情報提供方法のニーズ(網羅性、統一性、一元化、機械可読化)(2/2)

- メンテナンス情報などの機械可読形式や視聴者が状況を把握できる形式での情報提供が必要
 - ✓ 水位計などのメンテナンス予定情報などがメール等で届くため、対象の水位計ごとにお知らせ情報を機械可読形式で提供されることでデータを参照する住民に正確な情報を提供できる
 - ✓ カメラ映像配信の調整中のカメラ映像を黒色配信ではなく調整中の表示等を希望
- 等のニーズあり

テレメータデータのサンプルファイル

This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<TMObsrvtnData xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:noNamespaceSchemaLocation="TMObsrvtnData.xsd">
  <Header>
    <Office officeCode="20757">札幌開発建設部</Office>
    <ObsrvtnTime>2020-01-23T11:20:00</ObsrvtnTime>
  </Header>
  <Body>
    <ItemKind itemKindCode="4" itemKindName="水位">
      <ObsrvtnPointContainer obsrvtnPointFullCode="2075700400001" obsrvtnPointName="納内">
        <ItemData itemCode="10" itemName="河川水位" itemType="NumData" unitName="m">54.29</ItemData>
        <ItemData itemCode="20" itemName="河川流量" itemType="NumData" unitName="m3/s">64.26</ItemData>
        <ItemData itemCode="50" itemName="10分水位変化量" itemType="NumData" unitName="m">0.00</ItemData>
        <gnl warn stage name="水防団待機水位">57.5</gnl warn stage>
        <warn stage name="はん濫注意水位">58.9</warn stage>
        <spcl warn stage name="避難判断水位">59.2</spcl warn stage>
        <dsng stage name="はん濫危険水位">60.1</dsng stage>
        <dsng high stage name="計画高水位">61.75</dsng high stage>
      </ObsrvtnPointContainer>
      <ObsrvtnPointContainer obsrvtnPointFullCode="2075700400002" obsrvtnPointName="深川橋">
        <ItemData itemCode="10" itemName="河川水位" itemType="NumData" unitName="m">44.77</ItemData>
        <ItemData itemCode="20" itemName="河川流量" itemType="NumData" unitName="m3/s" contentsCode="160" contentsName="未収集"/>
        <ItemData itemCode="50" itemName="10分水位変化量" itemType="NumData" unitName="m">0.01</ItemData>
        <gnl warn stage name="水防団待機水位">48.3</gnl warn stage>
        <warn stage name="はん濫注意水位">49.3</warn stage>
        <dsng high stage name="計画高水位">49.81</dsng high stage>
      </ObsrvtnPointContainer>
      <ObsrvtnPointContainer obsrvtnPointFullCode="2075700400003" obsrvtnPointName="妹背牛橋">
        <ItemData itemCode="10" itemName="河川水位" itemType="NumData" unitName="m" contentsCode="140" contentsName="閉局(休止中)"/>
        <ItemData itemCode="20" itemName="河川流量" itemType="NumData" unitName="m3/s" contentsCode="140" contentsName="閉局(休止中)"/>
        <ItemData itemCode="50" itemName="10分水位変化量" itemType="NumData" unitName="m" contentsCode="140" contentsName="閉局(休止中)"/>
        <gnl warn stage name="水防団待機水位">37.9</gnl warn stage>
        <warn stage name="はん濫注意水位">39</warn stage>
        <dsng high stage name="計画高水位">40.89</dsng high stage>
      </ObsrvtnPointContainer>
    </ItemKind>
  </Body>
</TMObsrvtnData>
```

<https://www.river.or.jp/koeiki/opendata/komoku.html>

観測値の欠測情報や閉局状況などは把握できるが、メンテナンス時期等を示すお知らせ情報などはメールで提供

お知らせ番号:[01-XXXXXXX]

メンテナンス ○○県【□水位観測所(□市内)】

2024/XX/XX XX:XX [地域名]

○○県所管の□水位観測所は、停電作業ためXX月XX日XX時XX分からXX時XX分までデータのデータが欠測します。

※作業終了後、直ちに配信を再開します。

※天候状況、災害等が予想される場合は、中止・延期します。

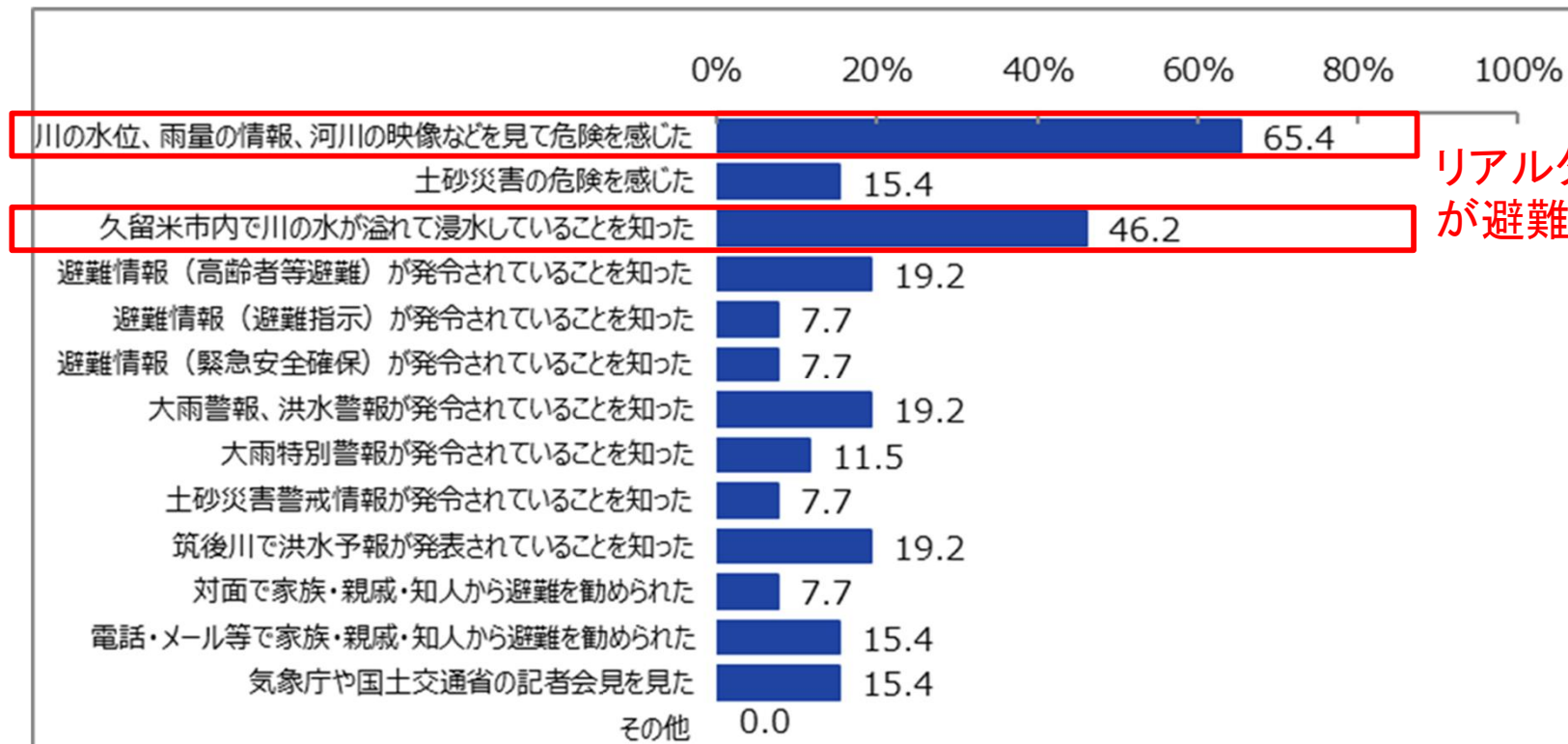
水防災オープンデータ提供サービスの例

<https://www.mlit.go.jp/river/event/main/datahaishin/index.html>

情報提供方法(パーソナライズ化)のニーズ

- 個人の現在位置や登録情報に基づく情報発信アプリの利活用推進
(マイ・タイムライン関連アプリ、逃げなきやコール関連アプリ)
- パーソナライズされた情報発信へのニーズ
 - ✓ 住民の位置情報等に対応した必要な情報をセットで提供できるとよい
 - ✓ 住民が自分事と認識してもらうためにパーソナライズ化された情報提供が必要
 - ✓ プッシュ型の通知の際に近隣の河川の映像が出てくるというような視覚的な訴求要素がある
等とのニーズあり

参考: 立ち退き避難した方への避難行動のきっかけとなった内容



リアルタイム情報
が避難のきっかけ

情報提供方法(パーソナライズ化)のニーズに係る関連取組

浸水ナビによる地点指定による影響箇所の確認

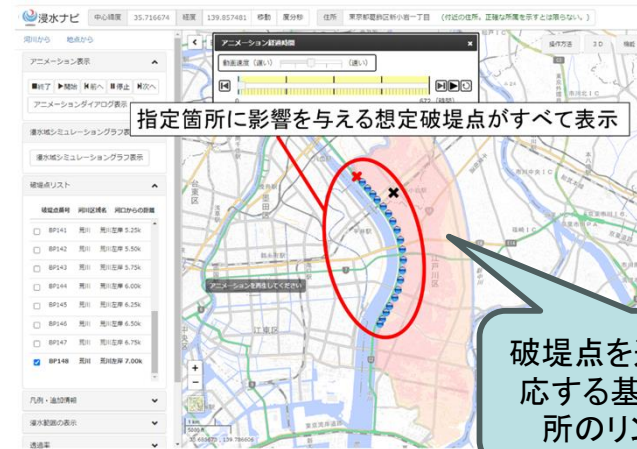
- 選択地点に影響のある想定破堤点や基準水位観測所を確認可能
- 浸水ナビのAPIも公開

○ある地点に影響を与える想定破堤点を知りたい場合
→地図上で場所を指定してから検索する

地図上で場所を指定してから検索する方法



地点選択
(居住地や現在地など)



対応する破堤点が
表示される



各破堤点を受け持ち区間
にもつ基準水位観測所

提供手段・対象の多様化のニーズ

- 情報発信手段の多様化が必要(高齢者、外国人等 多様な方への情報提供)
 - ✓ 自治体のホームページのダウンへの対応として、LINE、X、Facebook等で情報発信を代替する事も可能
 - ✓ 高齢者向け、外国人向けの情報発信が課題
- 等のニーズあり

【令和5年度】主なソーシャルメディア系サービス／アプリ等の利用率

	全年代(N=1,500)	10代(N=140)	20代(N=217)	30代(N=241)	40代(N=313)	50代(N=319)	60代(N=270)	男性(N=760)	女性(N=740)	70代(N=296)
LINE	94.9%	95.0%	99.5%	97.9%	97.8%	93.7%	86.3%	93.3%	96.5%	64.2%
X(旧Twitter)	49.0%	65.7%	81.6%	61.0%	47.3%	37.0%	19.6%	49.9%	48.1%	7.1%
Facebook	30.7%	10.0%	28.1%	44.4%	39.3%	32.6%	18.9%	32.8%	28.5%	11.1%
Instagram	56.1%	72.9%	78.8%	68.0%	57.2%	51.7%	22.6%	48.8%	63.6%	9.5%
YouTube	87.8%	94.3%	97.2%	97.1%	92.0%	85.6%	66.3%	89.6%	85.9%	39.9%
ニコニコ動画	13.7%	23.6%	24.4%	17.8%	10.5%	9.4%	5.2%	16.4%	10.9%	2.0%
TikTok	32.5%	70.0%	52.1%	32.0%	26.8%	25.4%	13.0%	29.2%	35.9%	3.7%

総務省 令和5年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査(R6.5)
https://www.soumu.go.jp/iicp/research/results/media_usage-time.html

提供手段・対象の多様化に係る関連取組

複数のSNSを用いた情報発信

- 多様な手段による情報発信も徐々に実施
- LINEは高齢層を含む世代への情報提供手段として期待

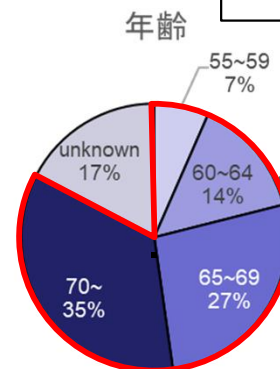
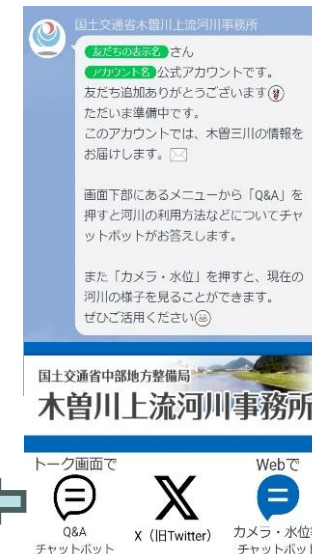
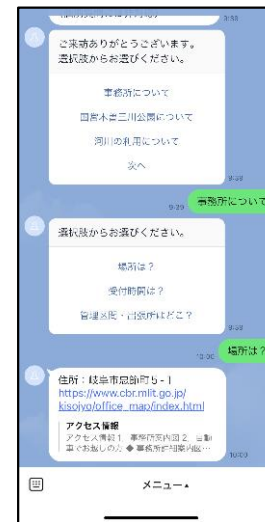
Instagramを用いた情報発信



LINE公式アカウントの開設



国土交通省木曽川上流河川事務所
友だち 999,999
木曽三川の情報をお届けします。
基本情報を見る>



LINEの友だちの年齢内訳

R7.1月時点の公式アカウントの「友だち」866名
（開設約3か月）

年齢層：55歳以上が8割以上
（70歳以上が3割以上）

LINE上でチャットボットを利用することにより「文字入力」せずとも必要な情報が取得可能